

令和2年度芙蓉保育園自己評価

保育所保育指針において、保育士及び保育所の自己評価並びにその公表が努力義務とされています。

このことを踏まえ、芙蓉保育園は保育の質の向上を図る為に、保育士の自己評価を年度末に年一回行っています。この結果を踏まえ、今後もより良い保育を提供できるように努力していきます。

◎ 教育及び保育の配慮

- ・子どもが喜びだけでなく、「いや」「だめ」という気持ちもしっかりと表現できるような、安心できる居場所作りを心がけた。それらの気持ちを受け止めた上で関わりを持ったが、その時の気持ちや状況は異なる為、他の保育士とこまめに話し合いながら、接し方や関わる保育士を変えていった。
その子に合う方法を見つけていく努力を続けていきたい。
- ・友だちとの関わりが増えてくる時期、引っかきや噛みつきなどのトラブルも度々見られるようになったが、子どもの気持ちを汲み取りながら、思いの伝え方を知らせ手を出してしまった子だけを、責めたりしないように配慮した。
- ・子どもに対して穏やかに接するように心がけたが、忙しい時間帯は子ども達の気持ちに寄り添う事ができず、急がすような言葉かけになってしまった。
- ・感染症対策で、手洗い・消毒・マスクの使い方・午睡の寝方・お集まりでの声の出し方等、分かりやすく知らせた事で身に付いてきた。

◎ 環境を通して行う保育

- ・今年度のひまわり組は、1,2,3歳児の異年齢保育だったが、年齢別に分けた活動を取り入れたり、子ども達がお世話をしあげたり、見て真似たりしながら成長できていた。
- ・子どもが何に興味を持っているのか、何を知りたがっているのか、できるだけ細かく把握し、一方的に教えるような関わりでなく、子ども自身が「知りたい」「やってみよう」と思えるような関わりができるよう努力していきたい。
- ・戸外遊び・季節ならではの遊びを楽しませる中で、安全に遊べるように監視役としての保育士を配置して、全体を把握できるように配慮した。
- ・新型コロナウイルス感染症対策で、室内や玩具の消毒をこまめに行い、感染対策への配慮をおこなった。

◎ 職員の資質向上

- ・今年度は、外部研修会は少なかったが感染対策を含めて、園内での話し合う機会が増えそれぞれの意見を出し合い職員の意識を高める事ができた。
今後も、園内外の研修で学んだ知識や技術を実際の保育にうまく反映できるよう努力し、子ども達の安全、安心を支える為に必要なことを考えていきたいと思う。
- ・気になる子どものことで他機関と連携したが、専門的な知識を深めること、子どもの発達や現在の状態の伝え方や関わり方の大切さを学ぶ事ができた。

◎ 保護者に対する支援

- ・日中の様子やできるようになったことを、子どもの前で保護者に伝えることで、その子の自信に繋がったり、共に成長を喜べるよう努めた。コロナ禍で保護者と接する時間が制限され、他児の保護者もいる中で話をすることが、とても難しく感じられた。
- ・子育ての悩みや疑問に対して、現状を知らせ少し視点を変えることで、成長の喜びに繋がることを伝え保護者に納得してもらうことができたが、悩みや心配事を話せない保護者には、「話してみようかな」と思えるような言葉かけや雰囲気作りを心がけていく事が必要だと感じた。
- ・今年度は、行事の中止も多く保護者とのコミュニケーションのとり方や伝達方法、行事のあり方等の見直しをしていく必要性を感じた。